

万葉園だより

第17号

平成20年1月10日 発行

編集・発行 社会福祉法人 南相馬福祉会

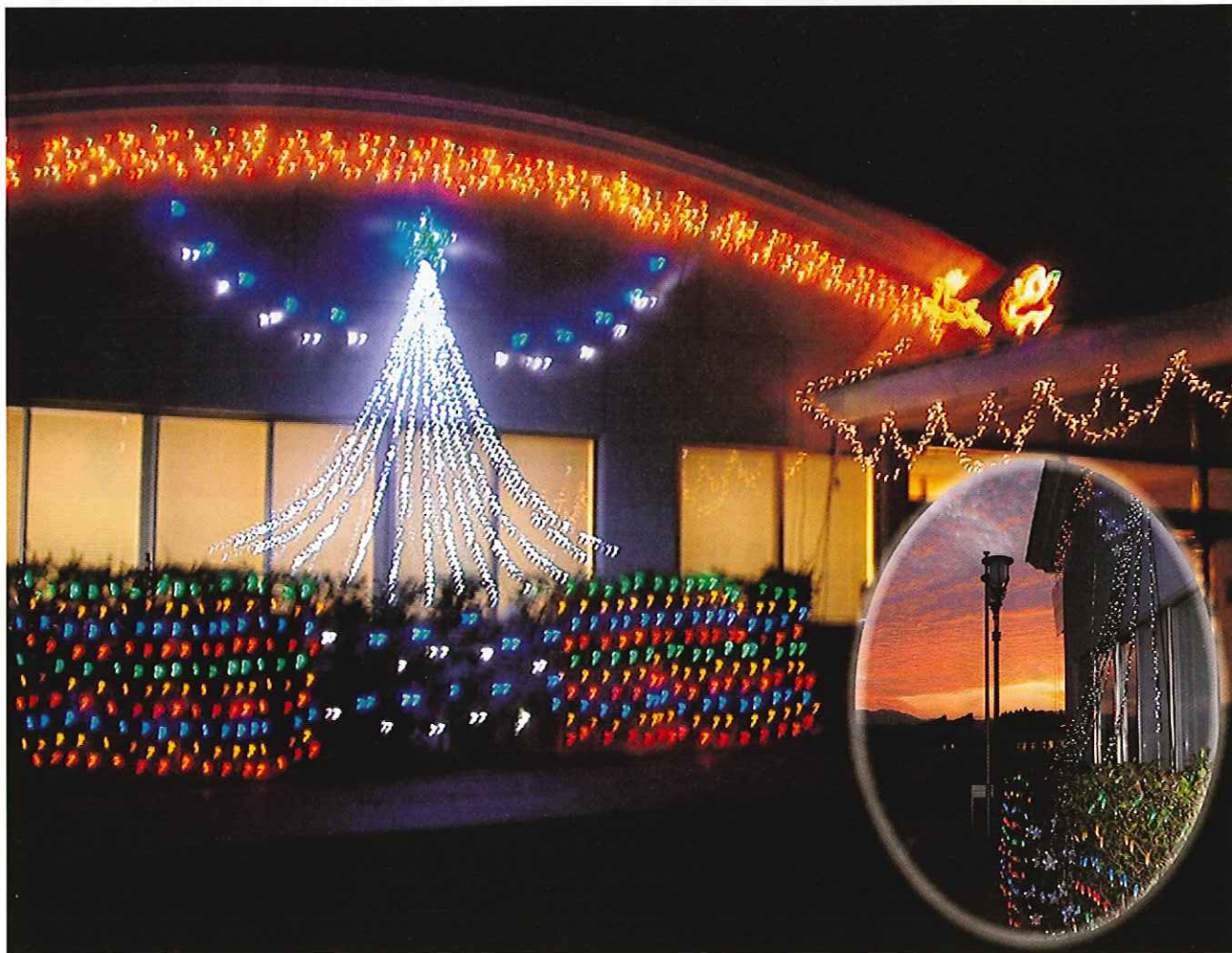
特別養護老人ホーム 万葉園



【事業内容】
特別養護老人ホーム 万葉園……………定員50人
グループホーム たんぽぽ……………定員9人



〒979-2334 福島県南相馬市鹿島区西町三丁目3番地
TEL(0244)67-1551 FAX(0244)67-1552
TEL(0244)67-1554(たんぽぽ直通)
E-mail manyouen@orion.ocn.ne.jp
URL <http://minamisoma.ask-daiko.co.jp/>



新年のご挨拶

施設長 梅田正彰

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
輝かしい新春を迎え、皆様のご多幸とご健勝を心からお祈り申し上げます。
昨年中は、万葉園・たんぽぽの運営に当たり、多くの皆様方の温かいご支援・ご教示を賜り心より感謝申し上げます。

当施設も時の流れと共に、開設以来六年目を迎え、ようやく独り立ちのできる施設に成長したかと実感できるようになりました。

また、南相馬福祉会としても創設以来十年を経過し、相双地方の中核的法人に成長したと自負しているところです。

今後益々高齢社会が進む中、十年の歩みを一区切りとし、今ここに踏み出した新たな一歩をステップとし「安心」、「信頼」、「やすらぎ」を基本理念としながら、地域の高齢者福祉向上のため力を尽くす所存であります。と同時に我々の業務は「対人援助」のサービス業であることを自覚し、日々研鑽に努め、福祉関係職員のプロとして、職員一丸となりご利用者の安心・安全確保のため邁進する覚悟であります。

どうか今後とも関係各位の変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年の挨拶といたします。

クリスマス会



12月16日(日)にクリスマス会を開催しました。利用者の皆さんによる合唱や演奏、職員のハンドベルや踊り、そしてNPO法人はらまちクラブみなみそうま遊夢チアリーダー様による、利用者の皆さんやご家族の皆さんまで巻き込んだチアリーディング。それぞれに利用者の皆さんの笑顔が!! でも、やっぱりご家族と話されているときの

笑顔が一番です。ご家族が来園され一堂に会するのは納涼祭以来。こういった催し物の大切さを改めて感じたクリスマス会でした。



万葉園だより!

風邪などで体調をくずしやすい冬、安心できるのが看護師さんの笑顔。というわけで今回は万葉園の遠藤主任看護師、桑原看護職員、中原看護職員の3名にインタビューを試みました。

—まず、病院と特養の違いはどのようなところですか?

遠藤 「特養では医療よりも生活に重点を置いているところ。キュア(治療)ではなくケアを実践しています」

中原 「病院では時間に追われて仕事をしていました。時計とタイマーは必須アイテムでした」

—今、万葉園医務室に欲しいものはありますか?

桑原 「褥瘡予防のための材料。病院にはいろいろあるので予防できますが、特養には少ないです」

遠藤 「消耗品でも高いものが多いですね」

桑原 「あと、ラジカセがほしいです。医務室に一人のとき寂しい(笑)」

—職員の健康管理も看護職員の皆さんの仕事ですが、万葉園の職員の健康状態はどうでしょうか?

遠藤 「若い職員が多いのに脂質異常などの生活習慣病が多いです。夜勤で不規則だったりしますが、野菜や魚を多く摂ってほしいですね」

—看護職員の皆さんご自身の健康管理は? 健康法などありますか?

桑原 「お酒(笑)。あと、おまかねながら青竹踏みしてます」

中原 「何だろう、ストレスをためないこと? たまっているのかどうかよく分からないんです」

遠藤 「栄養ドリンクです。300円以上のものだと効きますね。風邪をひきそうときは栄養剤を飲んでご飯を二杯食べます。ひく前に栄養をたくさん摂ると大丈夫です」

—今後も利用者の皆さんと職員の健康維持、管理をよろしく願っています。ご協力ありがとうございました。



素敵な看護職員の皆さん

クルーズホーム たんぽぽです

10月4日(木)、相馬市の「つりぼり
しらた」に行ってきました。
昨年は、いろいろなところに出かけ
ました。
今年も元気にたくさん楽しめます！

厨房より 愛と栄養を込めて

12月10日(月)、相双地区集団給食研究会の
研修会に出席し、ロイヤルホテル丸屋の総料理
長さんを講師に迎え、調理実習を行いました。
最初に華やかさに目を奪われ、
複雑でいて深い味わいに舌が驚き、
職人魂に心打たれました。
(栄養士：池田)

アニマルセラピー

10月18日(木)、11月22日(木)にアニマルセラピーのボランティア団体をお招きし犬や猫と触れ合う時間を設けました。初めは怖がっていた利用者の方も、慣れてくると抱っこし、目を細めてかわいがる姿も見られました。利用者の中からは「また来てほしい」との喜びの言葉も聞かれました。今後も万葉園のアニマルセラピーのクラブとして毎月一度お招きし、利用者の心の安らぎにつながればと考えています。

